

目的：平成元年版国民生活白書は、わが国の1人当り国民所得が世界最高水準に達しているのに、国民の7割近くが豊かさを実感できないことをあげ、生活全般にわたる国民のゆとり感を、経済的、空間的、時間的、精神的ゆとりに分け、国内の各種調査や統計資料を用いて実態分析を行った。本報告は、家政学の研究課題としても重要な「生活の質」とは何かを国際的な統計比較によって、諸指標から把握し、わが国の国民が豊かさを実感できない理由を追求することを目的とする。

方法：(1)国連等国際機関によって行われている既存の国際比較可能な統計指標を、上記4つのゆとりに、「健康・命の要因」を加えた5項目にあてはめて再編成する。(2)国連加盟国を先進市場経済国、発展途上国、計画経済国に3大分類し、さらにそれぞれを地域別に分類して主要国をこれにあてはめてグルーピングする。(1)の数値が(2)の各グループに所属する各国毎にどのように示されるかを指標毎に比較検討した。

結果：(1)わが国は、「経済」的指標のうち、一人当り国民所得は高いが、購買力平価で換算した賃金は高いとはいえない。また、消費者物価指数上昇率は高くはないが、主要食料品の価格は、国際的にみて高く、各国主要都市の生計費指数中東京のそれは、最高値を示している。(2)「空間」的には、人口密度は高く、道路1km当り車台数は多いが、住居密度の国際比較は既存の統計では難しい。(3)「時間」的には、年間実労働時間は長く、有給休暇日数は短い。(4)「精神」的、「文化」的には、識字率、高等教育在学率は高い。(5)「健康・命」要因では、医師一人当り人口は多いが、平均寿命は世界最高である。